



町内会費は払っているが、活動には無関心なある一家。今年も初詣に出掛けて…



1 2
4 3



町内会の ススメ

日常生活で意識することはあまりないけれど、地域での暮らしにいろいろと結び付いている町内会。今号では、あまり気付いてもらえないような身近な場所で、私たちの暮らしをそっと支えている町内会の活動を紹介します。

☎地域支援課 ☎7167-1126

そもそも町内会って何なんだ?



文中では「町内会」と表記されていますが、市内では町会・自治会・区などの名称で呼ばれている、地域のため・住民のための活動をする小さい単位の任意の住民組織です。昔ながらの「向こう三軒両隣」という人びとのネットワークが組織化されたもので、地域の防災・防犯活動や環境美化活動、見守り活動などを行っています。

Welcome 町内会!

愛した、これが



去年までは朝の通勤時に誰ともあいさつせずに駅まで歩いていただけ、今は町内会みんなに声を掛けられるようになったぞ。いろんな活動を通して町を見る目が変わったなあ…。みんなも俺に続いてみないかい?

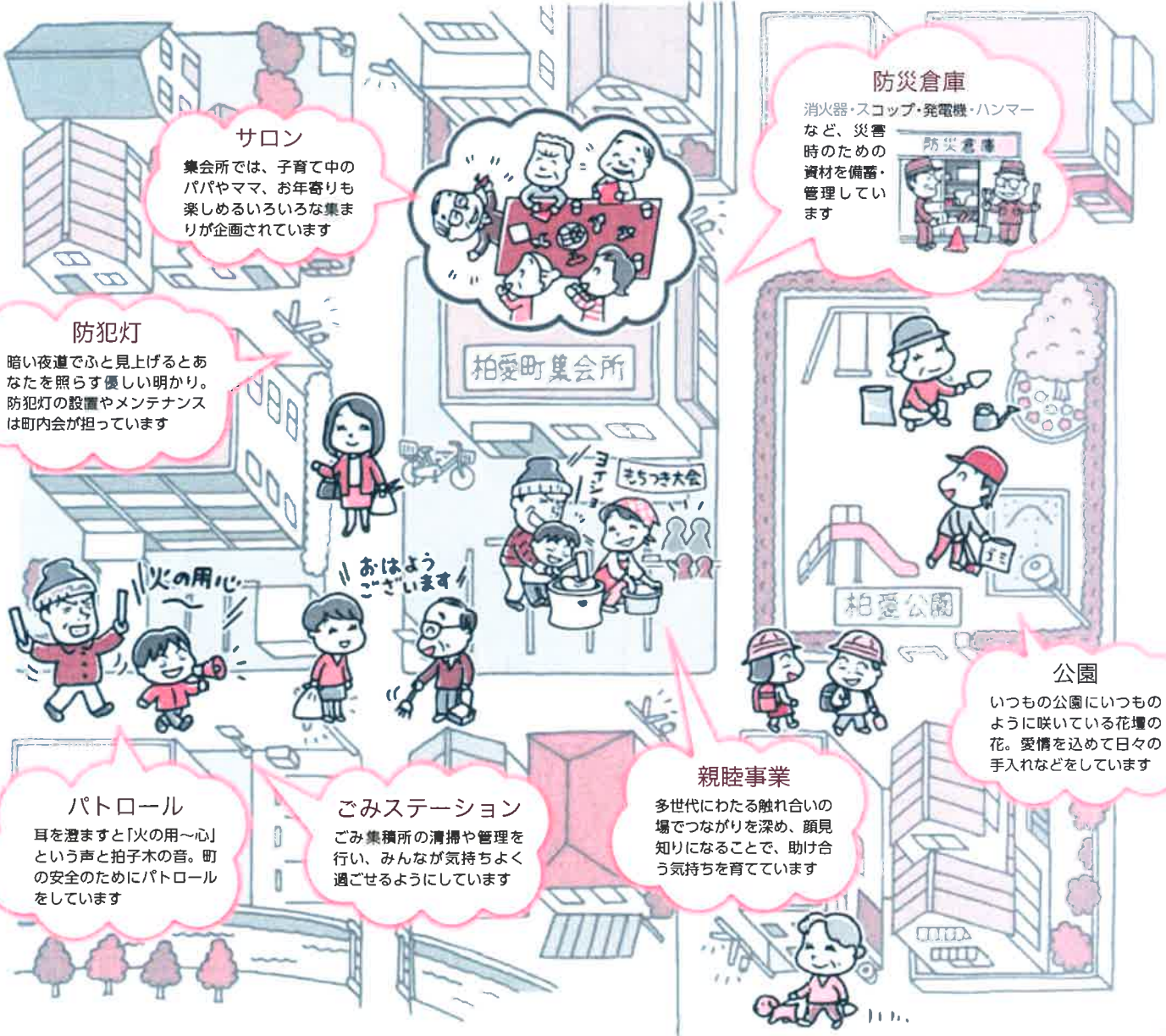
「町内会のススメ」の続きは2面へ ▶▶▶

1面からの続き「町内会のススメ」▶▶▶

あなたの知らない町内会の世界

職場と自宅の往復だけで、気が付いていないあなたの町の中で、
今日も町内会のいろいろな活動が行われています。

◎町内会によって活動は異なります



サロン

集会所では、子育て中のパパやママ、お年寄りも楽しめるいろいろな集まりが企画されています

防犯灯

暗い夜道でふと見上げるとあなたを照らす優しい明かり。防犯灯の設置やメンテナンスは町内会が担っています

パトロール

目を澄ますと「火の用心」という声と拍子木の音。町の安全のためにパトロールをしています

ごみステーション

ごみ集積所の清掃や管理を行い、みんなが気持ちよく過ごせるようにしています

親睦事業

多世代にわたる触れ合いの場でつながりを深め、顔見知りになることで、助け合う気持ちを育てています

防災倉庫

消火器・スコップ・発電機・ハンマーなど、災害時のための資材を備蓄・管理しています

公園

いつもの公園にいつものように咲いている花壇の花。愛情を込めて日々の手入れなどを行っています

いまさら聞けない!?

「町内会」素朴な疑問!

Q1 町内会に入りたいんだけどどうすればいいの?

市では、転入手続きをされたかたに町内会への加入をお勧めする案内書をお渡ししています。その後、転入されたかたがご近所へあいさつをされた時などに、役員さんから案内が来ると思います。所属する町内会がどこか知りたい、会長さんの連絡先が知りたいかたは地域支援課までご連絡ください。

Q2 町内会のオサイフ事情は?

収入の主なものは、皆さんの会費と市からの補助金です。集められたお金は町内会によって事情は異なりますが、防犯灯の維持管理費、夏祭りなどのイベント費用、会議時の資料作成費やお茶代、子ども会や自主防災会など地域の団体への活動助成、近隣の町内会が複数で参加するふるさと協議会への負担金、各種募金などに使われています。



市内の町内会の
先進的な取り組みを紹介しよう！

CASE 1 フェイスブックで 町内会の情報を発信

平成24年から松葉町5丁目第1自治会で、広報を担当している半谷さん。東日本大震災の際に、都内で仕事をしていて夜遅くまで柏の家族と電話が繋がらなかった経験から、非常時にも強いツールとして、自治会の広報にフェイスブックを導入しました。紙の広報紙は年に3回しか発行できませんが、フェイスブックに役員が交替で書き込むことで、リアルタイムの情報が発信でき、自治会の



員は自宅を離れていても、町の情報を確認することができるようになりました。

地方の大学に進学した子どもたちから「懐かしく見ているよ」と声を掛けられることもあるそうです。

「災害時に役に立ち、自治会に親しみを持ってもらえればとの気持ちで、今後も発信を続けていきます」とほほ笑む半谷さんでした。

CASE 2 DIG訓練をきっかけに 家族や町を守る方法を考える

DIG訓練とは、Disaster (災害)、Imagination (想像力)、Game (ゲーム)の頭文字を取って命名された、図上でできるゲーム形式の防災訓練のことです。参加者は住んでいる地域の地図を囲み、災害が起こったと想定して、避難所までの避難経路や途上で考えられるさまざまな危険性について自由に意見を出し合います。市の防災安全課では、各町内会等からの依頼を受け、職員を派遣しています。



上三丁目町会(柏中央地域)の役員の方々は、昨年4月に行ったこの訓練の企画と体験をきっかけに、わが町を見直しました。DIGをやりながら、



意見を交換することで、近隣地域の知らなかった情報を得ることもできました。自宅に戻って家族で話し合いをした役員の方々は「DIGが終わりではなく、これがスタート。今後も町会のメンバーで家族や町を守る方法を考えていきたい」と語ってくれました。

CASE 3 「自由の広場」で みんなでカシニワ作り

地域に公園や広場がなく、子どもたちが安心して遊んだり、気楽に集えたりする場所がなかった新若柴町会。市の未利用地を借り受けて「自由の広場」と名付けたこの広場を、「カシニワ=地域の庭」として登録しました。毎週末に草刈りや花壇作りなどの整備を行い、今では季節を彩る草花や野菜も植えられ、憩いの場となっています。また、ラジオ体操や夏祭りなど子どもたちも楽しめるイベントを開催し、町会会員に限定せず、広く開けた広場として



利用してもらえるように工夫しています。広場の管理を担う新若柴町会の伊藤会長は「みどりを通じて共に支え合い、協力し合える楽しい地域にしたい」と語ってくれました。

会長に聞く！

自分たちの町は自分たちの手で住み良い町に！

フェアフィールド常盤平町会 中田真美子会長



Q 町会の会長を引き受けたきっかけは？

平成13年にこの町会が生まれた時に、実家の父に言われた「最初にやっとなきゃ」とのことです。それから町会を自分の子どものような存在として見守り、町会と一緒に自分も年を重ねていくうちに愛着が湧いてきて、2度目の会長を引き受けました。

Q 町会の仕事を楽しむコツはありますか？

私たちの町会では輪番制で班長を引き受けるのですが、班長の仕事はその人が単独で引き受けるのではなく、家族全員が班長の気持ちを持ってほしいと伝えてきました。そうすることで、夫婦で参加されるかたも出てくるようになり、いつしか自然に町会の活動に関わる人が増えてきました。町会の活動を「義務」として捉えるのではなく「自分たちの町を住み良くするため」と思えば、共同作業の時間もワイワイと楽しく過ごせるようになりますよ。

Q 町会活動を長く続ける中で大変だったことは？

集会所の建設に際して、反対意見も出しましたが、みんなが集まれる場所が近くにあることの意義・必要性を一人一人に話し、理解してもらいました。それから8年、集会所で開催するサロン「ほっとステーション」は、お年寄りも若い人もみんながほっとできる居場所になりました。忙しい仕事の合間を縫って町会活動を続けていますが、「できる時にできる人がやる」「分からないことは誰かに教わろう」という柔軟な発想が長続きの極意です。地域と関わることは若さを保つ秘訣(ひけつ)ですね。

市は協働の在り方を考えていきます

市民ミーティングを開催

市では、近年町内会への加入率の低下傾向が続いています。町内会やふるさと協議会(以下、地域組織)を担うかたがたからも、担い手不足や参加者減少などの悩みが寄せられていました。これを踏まえ昨年2月より、町内会長などが加わった懇談会組織と市の職員で検討を重ね、また一般のかたとの市民ミーティングを開催し、理想の地域組織についての協議をしてきました。

提言

昨年10月、懇談会組織「地域組織と柏市との協働の在り方を考える会」から提言書が提出されました。内容は、地域組織は生活に密着した組織として代替が利くものでなく、市民にとって必要なものであるという結論と、望まれる地域組織の公共的役割やその役割を果たすために、市がすべき支援は何かといったことでした。

今後の課題

提言を受けて、市では地域組織との協働のために、活動の積極的なPR、地域活動を担う人材の育成、町内会への加入促進策の実施などをこれまで以上に進めていきます。

また、今後は中・広域組織であるふるさと協議会等の活動についても、市民の皆さんと一緒に検討を続けていきます。